

国語 第1学年 てがみを かこう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第1学年下巻の書くことの単元で、同社の年間指導計画例では12月に置かれている。他社の教科書を使う学校では、身近な人に知らせたいことを手紙に書く単元（学習指導要領B(2)イの「日記や手紙を書くなど」）に置き換える。手紙の作例は教科書によって違うので、使う教科書で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、知らせたい相手と知らせたいことを決め、相手の名前、知らせたいこと、自分の名前の順で、「です」「ます」を使った手紙を書ける。書いた後に声に出して読み返し、字の間違いや「は・へ・を」、句点、文と文との続き方を自分で見付けて直せる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)キ	キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)エ	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)ア	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(2)イ	イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 長音、拗《よう》音、促音、撥《はつ》音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(7)	(7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした総合的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

単元目標

丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使い、敬体で書かれた文章に慣れる（(1)キ）。語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、書いた文章を読み返して、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる（B(1)ウ・エ）。知らせたいことを手紙に書いて、身近な人に進んで伝えようとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ）	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ②「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（B(1)エ）	①進んで、書いた手紙を読み返し、学習の見通しをもって、知らせたいことを身近な人に手紙で伝えようとしている。

単元の流れ

全6時間（書くこと6時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（1年）で、この単元は12月、書くこと6時間。次ごとの内訳（1・4・1）はこちらの案。年間指導計画に合わせて増減する。学習指導要領 第3の1(5)は、第1学年及び第2学年のB書くことに年間100単位時間程度を配当するとしている。国語の標準授業時数は第1学年で年間306単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○手紙を書いたり、もらったりしたことを話し合う。 ○学習課題「うれしかったことやたのしかったことを、てがみに書いてしらせよう」を確かめる。	態①（発言）
第2次	2	○手紙を送る相手を決め、知らせたいことを選ぶ。 ○「いつ・どこで・だれと・なにをした・どう思った」を、絵とことばのメモに書く。	
	3	○手紙の形（はじめに相手の名前、知らせたいこと、さいごに自分の名前）を確かめ、学級みんなで同じ相手に出す手紙を書いてみる。 ○「です」「ます」で書くと、もらった人がどう感じるかを話し合う。	知①（ノート・発言）
	4	○メモを見て、自分の手紙の下書きを書く。	思①（下書き）
	5 （本時）	○下書きを声に出して読み返し、字の間違い、「は・へ・を」、文と文との続き方、「です・ます」を確かめて直す。 ○直した手紙を清書する。	思②（下書きの直し・観察）
第3次	6	○書いた手紙を友達に読んで聞かせ、知らせたいことが伝わるかを聞き合う。 ○手紙を相手に渡す。学習を振り返る。	態①（振り返り・観察）

本時の案

本時の目標：書いた手紙を声に出して読み返し、字の間違いや、語と語、文と文との続き方、丁寧な言葉になっているかを確かめて直すことができる。(B(1)エ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前の時間に書いた手紙の下書きを出し、だれに、何を知らせる手紙かを確認する。 2 先生が書いた手紙(間違いの入った物)を、みんなで声に出して読み、おかしい所を見付ける。 ○「先生の手紙には、おかしい所があります。どこでしょう」 【めあて】てがみを こえに だして よみかえし、まちがいを なおそう。 〈予想される児童の反応〉 ・「がっこうえ」になっている。「へ」だと思う。 ・まる(。)がない所がある。 ・「たのしかった」より「たのしかったです」の方が手紙らしい。 ・「ぼくは」が二回続いていて、読みにくい。	・先生の手紙は、学級の子どもも知っている人にあてて書き、字の間違い、「は・へ・を」、句点の落ち、「です・ます」の混ざり、文の続き方の間違いを入れておく。教科書の作例の文は使わない。 ・見付けた間違いは、「じ」「は・へ・を」「と,」「です・ます」「つづきかた」の見直しカードに分けて貼る。
展開 (分)	3 見直しカードを見ながら、自分の下書きを小さな声で読み返す。 ○「一文ずつ、指でなぞりながら読みましょう。おかしい所に赤えんぴつで印を付けましょう」 4 印を付けた所を直す。 5 とんりの友達と手紙を交換し、声に出して読んでもらう。 ○「友達に読んでもらって、読みにくかった所はありましたか」 6 友達に言われた所を確かめて、直す。 〈予想される児童の反応〉 ・「わたしわ」を「わたしは」に直した。 ・まる(。)を付けた。 ・「あそんだ」を「あそびました」に直した。 ・「それで」を入れたら、続き方がよかった。 ・友達に読んでもらうと、読みにくい所が見付かった。	・指で一文ずつ押さえさせ、声に出して読ませる。目で見るだけでは間違いに気付きにくい。 ・見直しカードの観点を一つずつ順に確かめさせ、全部を一度に見させない。 ・印を付けられない子には、先生が一緒に読み、つかえた所で止まって「ここはどう書くといいかな」と聞く。 ・直す時は消しゴムで消さず、赤で書き足させる。どこを直したかが本人にも先生にも見える。 ・早く終わった子には、知らせたいことに「どう思ったか」が書けているかを確かめさせる。 ・友達に読んでもらう時は、間違いを責める言い方ではなく「ここが読みにくかったよ」と伝える言い方を先に示す。 ◎思② 書いた手紙を読み返し、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(下書きの赤の直し・観察)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 直した手紙を清書する。 8 振り返りをする。 ○「よみかえして、どんなところをなおしましたか」 〈予想される児童の反応〉 ・「は」と「わ」を直した。 ・読み返すと、まちがいが見付かった。	・清書が終わらない子は、次の時間の初めに続きを書かせる。 ・振り返りは「なおしたところ」に○を付ける形にし、書ける子には一文で書かせる。 ・次の時間に手紙を相手に渡すことを伝える。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ。右端に日付・題名・めあて（ひらがな、分かち書き）。その左に先生の手紙（間違い入り）を拡大して貼り、間違いの所に赤で印と直した字を書く。中央に見直しカード（「じ」「は・へ・を」「。と、」「です・ます」「つづきかた」）を縦に並べて貼る。その左に、子どもが直した例を二つか三つ書く。左端に振り返りの問い。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は四つ。一つ目、書くことが決まらない、または「たのしかったです」の一文で終わる。手当ては、絵とことばのメモで「いつ・どこで・だれと・なにをした・どう思った」を先にそろえること（B(1)ア）。二つ目、「です・ます」と「だ」で終わる文が混ざる。手当ては、先生が両方の言い方で同じ手紙を読み上げ、もらった人の気持ちで聞き比べさせること（(1)キ）。三つ目、「わ・は」「え・へ」「お・を」の書き分けや句点を落とす。手当ては、見直しカードに「は・へ・を」の札を作り、読み返して必ず確かめる観点にすること（(1)ウ）。四つ目、読み返しを目だけで済ませ、間違いに気付かない。手当ては、声に出して指で押さえながら読む読み返しを毎回同じ順で行い、友達に読んでもらうことも組み合わせること（B(1)エ）。

プリントの案

絵とことばのメモ

上に「だれに」「なにを しらせる」の欄。その下に五つの欄（いつ・どこで・だれと・なにをした・どう思った）を並べ、絵か短い言葉を書く。B(1)アに合わせた。

てがみの用紙

縦書きの升目の用紙。右の一行目に相手の名前を書く欄、左端に自分の名前を書く欄を印刷する。升目の大きさは学級の実態に合わせる。

見直しカード（本時）

観点「じ」「は・へ・を」「。と、」「です・ます」「つづきかた」を絵と一緒に一枚にし、確かめた観点到○を付ける。手紙の下書きの横に置いて使う。B(1)エ、〔知識及び技能〕(1)ウ・キに合わせた。

先生の手紙（間違い入り）

先生が、学級の子どもも知っている人にあてて、知らせたいことを書いた手紙。字の間違い、「は・へ・を」、句点の落ち、「です・ます」の混ざり、文の続き方の間違いを入れておく。教科書の作例の文は使わない。

ふりかえりカード

見直しカードと同じ五つの絵から「なおしたところ」に○を付ける欄と、「よみかえしてよかったこと」を一文で書く欄。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、主体的に学習に取り組む態度の評価規準の作り方（粘り強さ・学習の調整・重点とする内容・言語活動）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（1年）「1年下巻」の本単元の行。単元名・時期（12月）・配当時数（書くこと6時間）と指導目標の指導事項の出典。指導計画の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第1学年306・第2学年315）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県教育委員会「みえ地物一番給食の日」にかかる指導案集（平成24年）ほか、三重県で公開されている小学校の学習指導案。見出しの順と表の列の形だけ使った（中身は写していない）（<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000058456.pdf>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重